

イスラームにおける新生児観—フィットラ (*fitrah*) 概念を中心に—

イスラームにおける新生児観
—フィットラ (*fitrah*) 概念を中心に—

服 部 美 奈

**The Islamic View on Newborn Infants;
An Analysis of the Concept of *Fitrah***

Mina Hattori

Abstract

The purpose of this paper is to analyse the Islamic view on newborn infants in relation to the concept of *fitrah*. In Islam, all newborn infants are born with a *fitrah*, which means one's possibilities and basic abilities. In particular, the *fitrah* of faith and that of God's nature are emphasized. Newborn infants are considered to have a *fitrah* of faith in Allah and to be pure in nature, because every human being makes a promise to Allah before their birth and Allah breathes His spirit into them. Additionally, some rituals—for example, *Adzan and Qamat*, and '*Aqiqah*—are carried out to develop *fitrah*.

Key Words

Islamic education, *fitrah*, religious rituals, *Adzan and Qamat*, '*Aqiqah*

0. は じ め に

本稿の目的は、イスラーム教育思想のなかの子ども観を明らかにしていく一環として、特にイスラームにおける新生児観と、その新生児観に基づいて実施される儀礼の意味について、フィットラ (*fitrah*) という概念を中心に考察することにある。

世界のイスラーム教徒つまりムスリム人口は現在10億人を越えるとされる。たとえば東南アジア地域を例にとってみても、2億を越える人口の約88%がイスラームを信仰するインドネシアをはじめとして、他の国々にも多くのムスリムが存在している。それらの諸国では、厚くイスラームを信仰し、かつ国家の発展に寄与しうる人材を育成する教育のあり方が模索されている。

敬虔なムスリムを育てるために早期からの宗教教育が重要¹⁾であることは、クルアーンとハディース²⁾の多くの箇所であらわれている。イスラーム文化圏では、クルアーン学習のた

めの施設が学校教育とは別に設置され、子どもは大体6, 7歳になるとクルアーン朗唱, 礼拝, 断食を学習するよう促される。ムスリムにとって敬虔な子どもを育てることは神の意思に従って生きる信仰実践の一部として捉えられているからである。これらのイスラーム教育の基本的な方向性は、クルアーンとハディースのなかで言及された人間観に基づいており、なかでもイスラームにおける人間性の概念の根幹となっているのがフィトラという概念である³⁾。

筆者は以前、インドネシアにおいてムスリムの子どもの通過儀礼と社会化に関して調査を実施したことがある⁴⁾。地域文化と結びついた、生きたイスラームを実証的に研究することが必要であると考えたからである。しかしその際、儀礼の背景にある子ども観まで十分に触れることができなかった。そのため本稿では特に、イスラームにおける子ども観の思想的側面について、クルアーンおよびハディースを中心に考察することを主な課題としたい。クルアーンとハディースはムスリムの信仰実践の拠り所であり、人間の善悪に関する判断の究極的な基準としてムスリムの思考や行動を規制するものだからである。

わが国でイスラームにおける子ども観、特に新生児観に関して考察を行った研究はこれまでもいくつかなされている⁵⁾が、クルアーンとハディース解釈に基づく研究は今だ多いとは言えない。このような研究の状況から本稿で検討することは必要であると考えた⁶⁾。

1. 人間存在と信仰

まずはじめに、イスラーム思想において人間の存在と信仰がどのように捉えられているかを考えてみたい。クルアーンのなかでは人間の存在が次のような形で表現されている。

وَمَا خَلَقْتُ الْجِنَّ وَالْإِنْسَ إِلَّا لِيَعْبُدُونِ

私（アッラー：訳者注）が人間とジンを創造したのは私に仕えさせるためである⁷⁾。[第51章：まき散らすものの章第56節（al-Dzariyat: 56）]

ここで「仕える」と注釈を加えた言葉の原語「عَبَدَ」は、より厳密には「跪く（menyembah）」あるいは「絶対服従する（tunduk）」と訳すべき言葉であり、人間がアッラーに対してとるべき根本的態度としての絶対服従・絶対帰依を意味している⁸⁾。そしてこの章句は、信仰こそアッラーが人間を創造した目的そのものであること、ヌルホリッシュ・マジッドの表現を借りれば「アッラーに仕えることこそが人間が生きることの真実（hakiki）」であることを同時に示唆している⁹⁾。ここから、ムスリムにとって人間の存在と信仰がいかに分ち難いものであるかを理解することができる¹⁰⁾。

では、「人間がアッラーに仕える」とは具体的に何を意味し、どのようにして信仰を深めればいいのか。イスラームでは、「人間は人生の真実を探し求めるために一人で放置される

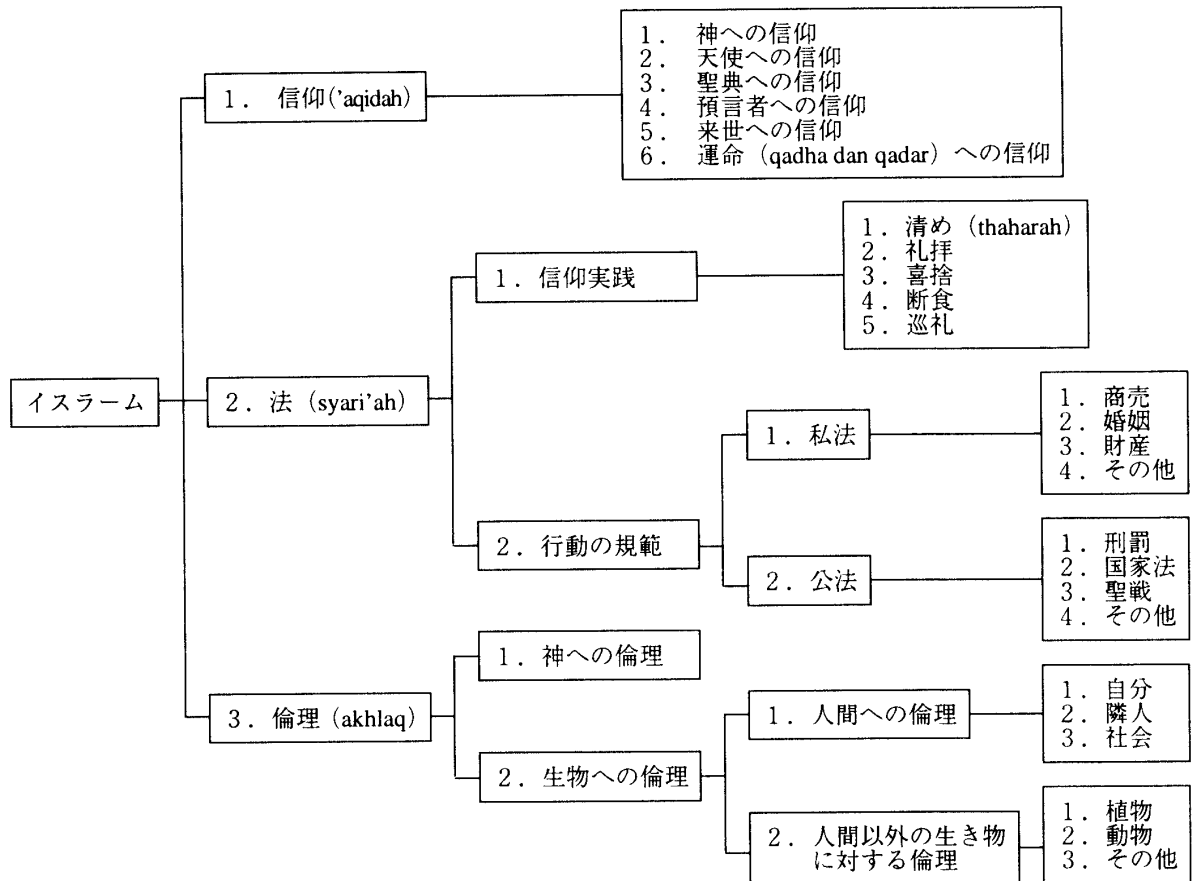
わけにはいかない」存在であり、そのためにこそアッラーは預言者を通して人間に指針を与えたのだと考えられている¹¹⁾。さらに、従うべき神の意思とは、漠然としたもの、抽象的なものではなく、クルアーンにおいて極めて具体的な形で、しかも人間生活のあらゆる局面にわたって示されるものである。クルアーンとハディースのなかでは、「神に対する人間の態度としての信仰はどうあるべきか、どのように礼拝や断食や施しや巡礼を行うべきか、といったいわゆる宗教上のことだけでなく、親子兄弟の関係、結婚、離婚、遺産相続、商売取引、契約、孤児の養育、召使いの処遇、等々にいたるまで事細かに述べ」られている¹²⁾。このようなイスラームの性質に関して、次のようないくつかの説明がなされる。

- i) 「さまざまな関係性—神と人間、人間と人間、人間と他の自然（植物、動物など）—を規定し、人間のあらゆる生活を秩序立てる一つの信仰（'aqidah）体系・規則（tata-qa'idah）体系である」¹³⁾
- ii) 「聖（suci）なる存在に忠実な行為や信仰—つまり、許されている（halal）ものと禁じられている（haram）ものを区別し、しっかりした精神をもつ信徒を導くことのできる—から構成される種々の規則である」¹⁴⁾
- iii) 「次の要素を含み込む信仰および生き方（cara hidup）である。つまり、a) すべての法や価値観の源である神の存在を信じること、b) 預言者に対する神の預言を信じること、c) 神と人間の間に関係性があることを信じること、d) この関係性が日々の生活に影響を与えうるものであると信じること、e) 物質的な死によって魂は消滅しないことを信じること、f) 神との関係を生じさせるものとしての信仰実践（ibadat）を信じること、g) 現世における生活の目的は神のため（keridhaan）であることを信じること、である」¹⁵⁾

井筒によれば、人間は「神の啓示を正しく了解することによって神にたいして“責任を負わされた存在（mukallaf）＝ムカッラフ”となる」という。そして、「神に対して、また共同体にたいして責任を負わされた存在・神の啓示によって宗教的・倫理的に義務づけられた存在」として、この「ムカッラフ」ということがイスラームにおいてはほとんど人間の本質を規定するほどの重要性をもつという¹⁶⁾。このイスラームの基本的な性質と体系について、もう少し具体的にみてみよう。サイフディン（Saifuddin）は、イスラームの体系を大きく、1）アキダー（'Aqidah）、2）シャリア（Syari'ah）、3）アフラック（Akhlaq）の3つに分類し、図1の見取り図を提示している¹⁷⁾。

第一のアキダーは「信仰（kepercayaan, keyakinan）、信（iman）」を意味し、ムスリムとして信じるべき宗教的な対象への信仰を意味する。この信仰は、アキダーの具体的な分類として図のなかで挙げられている「六信（Arkanu 'I-Iman : rukun iman yang enam）」を意味する。六信とは、1）神への信仰、2）天使への信仰、3）聖典への信仰、4）預言者への信仰、5）来世への信仰、6）運命への信仰を指す。イスラームでは特にこの六項目を信ずること、六信を信仰の礎としている。

第二のシャリアは、「人間と神の関係、人間と人間の関係、人間と他の生物との関係、の3つの関係を秩序立てる神の規範体系」を意味する。これは図のように、1）信仰実践イバ



(Endang Saifuddin Anshari, 1986, p. 29)

図1. イスラームの基本的見取図

ダー (ibadah) と、2) 行動の規範ムアマラ (mu'amalah) という二つの原則 (Qa'idah Syariah Islam) に大別される。信仰実践イバダーは、具体的な信仰実践を意味し、「クルアーンおよびハディースのなかですでに詳細に規定されている法、規則、儀式などに沿って、神と人間との間の直接的な儀礼関係を秩序づける神の法 (tata-aturan Ilahi)」が示されている。具体的には、図のように、1) 清め (thaharah), 2) 礼拝, 3) 喜捨, 4) 断食, 5) 巡礼に分けられ、それぞれにクルアーンとハディースによって規定された法が存在する¹⁸⁾。もう一方、行動の規範ムアマラは「人間と人間との関係、人間と物との関係を秩序立てる神の法」のことである。これはさらに、1) 私法 (hukum perdana), と2) 公法 (hukum publik) の2つに分類される。私法では、商売、婚姻、財産などに関係する法など、公法では、刑罰、国家法、聖戦に関係する法などが入る。

また第三のアフラックは、「倫理 (etika)」を意味し、創造主としての神への倫理と、神以外の被創造物に対する倫理に分けられる。さらに、神以外の他の生き物に対する倫理は、人

間と人間、人間と他の生き物の間の倫理として具体的に意味づけられている¹⁹⁾。

この図からも、イスラームは人間生活のすべての関係性、行為、価値、信仰や道徳を規定し、さらにイスラーム法によって何が許される行為で、何が許されない行為なのかをあらゆる側面にわたって秩序立てている価値体系であることが理解できる。究極的にはこれらを確信し、かつ実践していくことが「アッラーに仕える」ことなのであり、「ムカッラフ」としての人間の存在の意味なのである。

ここに人間の存在と信仰、そして信仰と教育の基本的な立場がみえてくる。つまり、信仰は人間が創造された目的そのものであり、信仰なしに人間存在の意味はない。そしてイスラームにおける信仰は日常生活のあらゆる側面に及んでおり、アッラーと預言者によって示された正しい方法によって実施されなければならない。しかし、信仰を正しく行うために人間は「一人で放置されるわけにはいかない」存在であり、生活のあらゆる側面にわたるイスラームの教えは教育を通して伝達されなければならないのである。

2. フィトラ (fitrah) という考え方

「一人で放置されるわけにはいかない」弱い存在ではあるものの、人間は全く何もない状態で誕生してくるわけではない。人間は、誕生時にすでに一定の可能性をもって生まれてくる。これがイスラームでいうところのフィトラという概念である²⁰⁾。

シャフミナン・ザイニ (Syahminan Zaini) は、フィトラを「誕生時にもって生まれる、人間に内在する秘められた力 (kekuatan terpendam), あるいは潜在的可能性 (potensi laten)」と定義している²¹⁾。またアリフィン (M.Arifin) は、フィトラという言葉が「～にする・創造する (menjadikan)」を意味する動詞「فَطَرَ」の派生語であることを指摘し、フィトラを「基本的能力あるいは生来もって生まれるもの (kemampuan dasar/pembawaan)」と定義している²²⁾。シャフミナン・ザイニとアリフィンの定義から、フィトラは「生来もって生まれる潜在的可能性あるいは基本的能力」と捉えることができる。

人間が生来もって生まれる潜在的可能性や基本的能力にはさまざまな種類があると考えられている。たとえばアリフィンは、才能や性格、遺伝などもフィトラの構成要素として含まれることを示唆している²³⁾。しかし、ここでは特にフィトラの二つの側面に注目したい。

第一に、フィトラという言葉がとりわけ信仰との関係において多く使用され、かつ重視されている点である。「第一のフィトラは、(イスラームを) 信仰するフィトラである」というハディースはこのことを端的に示している²⁴⁾。たとえば、クルアーン「第30章：ビザンチン章 (Ar-Rum) 章」第30節のなかで、フィトラは次のように使用されている。

فَأَقِمْ وَجْهَكَ لِلدِّينِ حَنِيفًا فِطْرَتَ اللَّهِ الَّتِي فَطَرَ النَّاسَ عَلَيْهَا لَا تَبْدِيلَ
لِجَلْقِ اللَّهِ ذَا لِكَ الدِّينِ الْقَيْمُ وَلَكِنَّ أَكْثَرَ النَّاسِ لَا يَعْلَمُونَ (الروم ٣٠)

汝の顔を宗教に向けよ、神が人間をお造りになったフィトラに従って。神の創造に変更はない。それは正真正銘の宗教である。しかし多くの人はいずれもこれを知らない。[第30章：ビザンチン章第30節 (ar-Rum: 30)]²⁵⁾

この章句は、人間はフィトラに従えば、もともと宗教を信仰する傾向を持ち合わせていること、上の章句に沿って言えば「宗教に対してまっすぐに顔を向けること」は、「アッラーが人間に対して与えたフィトラ」であることを明らかにしている²⁶⁾。

第二に、人間の魂が神によって直接吹き込まれることから、人間のフィトラには神の性質が含まれているという点である。次のクルアーンの章句は、神による人間の創造を表わしている。

إِذْ قَالَ رَبُّكَ لِلْمَلَأِئِكَةِ إِنِّي خَالِقٌ بَشَرًا مِّنْ طِينٍ
فَإِذَا سَوَّيْتُهُ وَنَفَخْتُ فِيهِ مِنْ رُّوحِي فَقَعُوا لَهُ سَاجِدِينَ -ص: ٧١-٧٢-

あなたの神が天使に語ったことを覚えておきなさい。私は土から人間を創造し、人間を完全にするために私の魂 (ruh) を人間に吹き込んだのだ。だからあなたたち天使は人間にひざまづくべきなのである [第38章：サード章第71節-72節 (Shad : 71-72)]²⁷⁾

この章句は、人間の魂がアッラーの魂から生まれ出たものであることを示している。そして、人間のフィトラには神の性質が含まれており、本質的には天使によって跪かれるに値するほど、高貴な性質をもっていることが示されている。

次に、この二つのフィトラを信仰するフィトラと神の性質をもつフィトラが、新生児の誕生のなかでどのように意味づけられるのか、新生児がもって生まれるフィトラが具体的にクルアーンとハディースのなかでいかに表現されているのかを考察していきたい。

3. イスラーム思想における新生児

1) 信仰するフィトラと新生児

信仰するフィトラと新生児については、ハディースのなかによく語られている²⁸⁾。

كُلُّ مَوْلُودٍ يُوَلَّدُ عَلَى الْفِطْرَةِ فَأَبَوَاهُ يُهَوِّدَانِهِ
أَوْ يَنْصُرَانِهِ أَوْ يمجِّسانِهِ. (البخارى و مسلم)

すべての子どもは宗教を信仰するフィトラをもって生まれてくる。そのため、両親こそが子どもをユダヤ教徒にしたりキリスト教徒にしたり、ゾロアスター教徒にするのである。[ハディース：ブホーリ & ムスリム (HR Muslim dalam kitab Shahih, Juz II, p. 459)]²⁹⁾

مَا مِنْ مَوْلُودٍ إِلَّا يُولَدُ عَلَى الْفِطْرَةِ (رواه مسلم)

すべての子どもは宗教のフィトラをもって生まれてくる。[ハディース：ムスリム (HR Muslim)]³⁰⁾

これらのハディースは、子どもはもともと信仰するフィトラをもって誕生すること、その子どもを真の宗教に従う人間にするかしないかは両親の責任であることを表現している³¹⁾。アリフィンによれば、ここでのフィトラは、真の偽りのない宗教をもつ基本的可能性を意味するという。そしてこの基本的可能性は、個々の人間のなかで決して変化することのないアッラーの創造物であり、誰によってもどのような環境によっても変化することはない性質のものであると考えられている³²⁾。つまり、イスラームにおいては一人の人間は誕生した時点ですでに宗教を信仰するフィトラをもって生まれてくるのであり、またそのフィトラはどのような環境によっても変化することがないと考えられているのである。

では、イスラームでいうところの真の宗教とは何か。アリフィンは、これについてムハンマド・アブドゥ (Muhammad Abduh)「タフシール・アル・マナール」のなかの「イスラームはフィトラによって信仰するよう方向づけられた宗教である」という解釈を引用し、「その宗教—つまりアッラーが授けた宗教—は偽りのない宗教である」と解釈している³³⁾。アフマド・タフシールもまた、クルアーンおよびハディースで述べられているところの「宗教」は、「アッラーの宗教 (agama Allah)」であることを指摘している³⁴⁾。

しかし、疑問は残る。なぜフィトラによって信仰するよう方向づけられた宗教がアッラーの宗教であると解釈できるのか。結論から先に言えば、イスラームでは、すべての人間は現世に誕生する前に偉大なる唯一神アッラーを唯一の神として認めているとされるからである³⁵⁾。それは人間として誕生する以前のアッラーとの問答にまで遡る。

すべての魂は人間として誕生する以前の霊界で、つまり胎児としてアッラーから魂 (ruh) を吹き込まれる前に、すでに一つの約束をするようアッラーから勧められるという³⁶⁾。この問答についてはクルアーン第7章：高壁章 (A'raf) 第172節のなかにみることができる³⁷⁾。

أَلَسْتُ بِرَبِّكُمْ قَالُوا بَلَىٰ شَهِدْنَا.

アッラーは人間の魂 (ruh) たちに質問する。「この私はおまえの神か？」人間の魂たちは答える。「はい！私たちが証言いたします」[第7章：高壁章 (アアラーフ) 第172節 (A'raf : 172)]³⁸⁾

この章句によると、私たち人間は誕生前にアッラーが神であることをすでに証言しており、その証言が人間として誕生する際にもって生まれるフィトラとなっているのである。つまり、本来的にすべての子どもは信仰するフィトラ、特にイスラームを信仰するフィトラをもって誕生する。したがって、誕生後イスラームを信仰しないことは人間のフィトラに背く行為であり、アッラーとの約束を無にする行為となる。しかし、フィトラはあくまでも潜在的可能性であるため、両親の教育次第で他の宗教を信仰する可能性もある。だからこそ、誕生以後、教育を通してあらためてイスラームを信仰するフィトラをまっすぐに成長させてやらなければ

ばならないのである。

2) 神の性質をもつフィトラ—純粹(suci) な存在としての新生児

さきに、人間の魂がアッラーの魂から生まれ出たものであること、そのため人間のフィトラには神の性質が含まれていることをみた。ここでは、神の性質をもつフィトラが新生児の誕生のなかでどのように意味づけられているのか、特に神の性質を引き継ぐ純粹な存在としての新生児について考察したい。

誕生時の新生児の状態はクルアーンのなかで次のように表現されている。

وَخَلَقَ الْإِنْسَانَ ضَعِيفًا - النساء - ٢٨-

また人間は弱い状態で創造された。[第4章：婦人章第28節 (An Nisa' : 28)]

وَاللَّهُ يُخْرِجُكُمْ مِنْ بُطُونِ أُمَّهَاتِكُمْ لَا تَعْلَمُونَ شَيْئًا وَجَعَلَ لَكُمُ
السَّمْعَ وَالْأَبْصَارَ وَالْأَفْئِدَةَ ...

またアッラーはあなたを母の腹から何も知らない状態で誕生させた。そして彼はあなたに聴覚、視覚、心をお与えになった。[第16章：蜜蜂章第78節 (An-Nahl : 78)]³⁹⁾

これらの章句は、新生児は罪を背負わず、何も知らない状態で、ただ神の性質を引き継ぐフィトラをもって誕生してくることを示している。シャフニナン・ザイニは、このことを人間は純粹(suci)な状態で誕生してくると表現している。

イスラームでは、バリフ (baligh) に達していない人間をイスラーム法によって罰することはしない。バリフとは、男子ならば精通、女子ならば初潮を迎えるまでの時期を意味する。つまり、バリフまでは人間は清算すべき罪を背負っていないのである⁴⁰⁾。次のハディースはこのことを示している。

النَّائِمُ حَتَّى يَسْتَيْقِظَ وَعَنِ الْمَجْنُونِ حَتَّى يَفِيْقَ

رواه ابو داود وابن ماجه .

罪の対象とならない3つの集団がある。バリフ以前の子ども、睡眠中の人、精神的障害状態の人である。[ハディース：アブ・ダウド&イブヌ・マジヤ (HR Abu Daud dan Ibnu Majah)]

このハディースは、人間はバリフに達するまではイスラーム法によって罰せられないこと、そのように考えれば結局、人間は誕生からバリフまでは罪を背負っていないことを示唆している。シャフニナン・ザイニは、人間は純粹な(suci)状態のなかで誕生すること、新生児からバリフに至るまでの子どもは純粹であるという解釈の根拠をここに見い出している⁴¹⁾。さらに、人間の魂はアッラーの魂から生まれたことから、人間は元来、神の姿に似せて創られ

イスラームにおける新生児観—フィットラ (fitrah) 概念を中心に—

た淨い存在であること、罪を背負わない純粋な状態で誕生してくることを示している。「現実の人間の生活はたしかに悪く汚れてはいるが、人間の本性そのものまで罪に染まっていない。ただ、人間は生まれつき不注意であるので、ややもすれば自分の本来の真直ぐな淨い性質からそれてしまう。これが罪に他ならない」のである⁴²⁾。

以上、フィットラと新生児について、二つの側面—信仰するフィットラと神の性質をもつ純粋なフィットラ—から考察してきた。

4. 新生児に対する儀礼

これまでの考察で、新生児は信仰のフィットラをもって誕生してくること、そして元来人間の性質は罪をもたず純粋であることがわかった。そのフィットラをアッラーの意思に従って成長させるためにまず第一に責任をもつのは保護者である。保護者がアッラーの意思を正確に理解し、子どもが敬虔なムスリムとなるよう教育しなければならないのである。子どもの教育と保護者の責任については、以下のクルアーンとハディースがそれを示唆している。

مَنْحَلٌ - أَعْطَى - وَالِدٌ وَوَلَدُهُ أَفْضَلُ مِنْ أَدَبٍ حَسَنٍ.

子どもに対する両親の贈り物のなかで良い教育にまさるものはない。

فَتَّحُوا عَلَيَّ صَبِيًّا نَكْمُ أَوَّلَ كَلِمَةٍ (ب) لَا إِلَهَ إِلَّا اللَّهُ وَ لَقِنُوهُمْ عِنْدَ الْمَوْتِ لَا إِلَهَ إِلَّا اللَّهُ. (رواه الحاكم عن ابن عباس)

子どもが話し始めたら、「ラー・イラーハ・イツラッラー (アッラーの他に神なし)」という言葉を教えなさい。また死に直面した時にも彼らが「ラー・イラーハ・イツラッラー」を唱えることができるように導きなさい。[ハディース：イマム・ハキム (HR Imam Hakim)]⁴³⁾

أَدَّبُوا أَوْ لَا دَكَّمْ عَلَى ثَلَاثَةِ حِمَالٍ حُبُّ نَبِيِّكُمْ
وَحُبُّ أَهْلِ بَيْتِهِ وَقِرَاءَةُ الْقُرْآنِ فَاءَنْ حَمَلَةَ الْقُرْآنِ
فِي ظِلِّ اللَّهِ يَوْمَ لَا ظِلَّ إِلَّا ظِلُّهُ مَعَ أَنْبِيَائِهِ وَأَصْفِيَائِهِ. (رواه الديلمى)

次の3つの点について子どもを教育しなさい。1. 預言者を愛するように、2. 家族を愛するように、3. クルアーンを朗唱できるように。[ハディース：ダイラミ (HR Dailami)]⁴⁴⁾

これらのハディースからも理解されるように、敬虔なムスリムとなるための教育は子どもの誕生からすぐに実施されなければならない。そして、新生児に対するいくつかの儀礼がそれと並行して定められている。以下、新生児に対する儀礼の内容とその意味をみていきたい。

1) 新生児に対するアザーン (adzan) とカマツト (qamat)

新生児が誕生した直後に奨励される儀礼は、新生児の右耳にアザーン、左耳にカマツトをささやくというものである。いくつかのハディースでは、これらの行為についての伝承がみられる。

رَأَيْتُ رَسُولَ اللَّهِ صَلَّى اللَّهُ عَلَيْهِ وَسَلَّمَ أُذِّنَ فِي أُذُنِ الْحَسَنِ بْنِ
عَلِيٍّ حِينَ وُلِدَتْهُ أُمُّهُ.

私は、ファティマが子どもを生んだとき、預言者がハサン・ビン・アリの耳元でアザーンをささやくのを見た。[ハディース: アブ・ダウド & テイルミジ (HR Abu Daud dan Tilmiji)]

مَنْ وُلِدَهُ مَوْلُودٌ فَأَذَّنَ فِي أُذُنِهِ الْيُمْنَى، وَأَقَامَ فِي أُذُنِهِ
الْيُسْرَى، لَمْ تَضُرَّهُ أُمُّ الصَّبِيَّانِ.

新生児が誕生し、右の耳にアザーン、左の耳にカマツトをささやけば、その新生児は危険から免れるだろう。[ハディース: バイハキ & スンニ (HR Baihaki dan Sunni)]

أَنَّ النَّبِيَّ صَلَّى اللَّهُ عَلَيْهِ وَسَلَّمَ أُذِّنَ فِي أُذُنِ أَحْسَنِ بْنِ عَلِيٍّ يَوْمَ وُلِدَ
وَأَقَامَ فِي أُذُنِهِ الْيُسْرَى.

預言者は、ハサン・ビン・アリが誕生したとき、右耳にアザーン、左耳にカマツトをささやいた。[ハディース: アッバース (HR Abbas)]⁴⁵⁾

アザーンとは、礼拝の時刻を告げる肉声による呼びかけ、カマツトは礼拝が始まる直前に小声で唱えられるものである。その意味する内容はアザーンもカマツトも同じだが、カマツトで唱えられるものはアザーンの半分となる。アザーンでは以下の内容が唱えられる。

اللَّهُ أَكْبَرُ اللَّهُ أَكْبَرُ > ۲ > أَشْهَدُ أَنْ لَا إِلَهَ إِلَّا اللَّهُ > ۲ >
أَشْهَدُ أَنْ مُحَمَّدًا رَسُولُ اللَّهِ > ۲ > حَيَّ عَلَى الصَّلَاةِ > ۲ >
حَيَّ عَلَى الْفَلَاحِ > ۲ > اللَّهُ أَكْبَرُ اللَّهُ أَكْبَرُ > ۱ > لَا إِلَهَ إِلَّا اللَّهُ.

アッラーは偉大なり。アッラーは偉大なり。私はアッラーの他に神なしと証言する。私はムハンマドが神の使徒なりと証言する。いざや礼拝に来たれ。いざや成功のために来たれ。アッラーは偉大なり。アッラーは偉大なり。アッラーの他に神はなし。⁴⁶⁾

アザーンではまず「アッラーは偉大なり」という言葉が繰り返される。そして、アッラー以外に神は存在しないこと、ムハンマドが預言者であることが証言される。この証言の内容は、人間が誕生する前にアッラーの前で証言した内容つまり、「この私はおまえの神か?」「はい、証言します」という問答にそのまま重なっている。さらに、この証言はイスラーム

イスラームにおける新生児観—フィトラ (fitrah) 概念を中心に—

における五行第一番目のシャハーダつまり信仰告白と同様の内容でもある。

新生児に対してアザーンおよびカマツトがささやかれる意味について、イブヌ・カイイム・ジャウズィヤー (Ibnu Qayyim Al Jauziyyah) は主として2つの意味があると述べている⁴⁷⁾。第一に、このアザーンは現世に誕生してほどこされる最初のイスラームについての教え (talqin) であるという点である。アザーンで示される神の唯一性についての教えは、「アッラーのもとから来て、再びアッラーのもとへ帰る」という人間の存在を、誕生と死に際して確認する行為となる。もし、新生児がその意味を知らなくとも、アザーンの効果が魂のなかに浸透すれば生来もっているところのイスラームを信仰するフィトラが呼び起こされ、彼は背信者になることはないと考えられている。

第二に、人間のフィトラが誤った方向へ向くことを望む悪魔 (syetan) が、誤った教えを新生児にささやく前に、それに先んじてアッラーの偉大さを知らしめようとする点にある。イスラームでは、人間は悪魔と欲という敵をもっており、悪魔は常に人間がアッラーの教えから逸脱することを望んでいると考えられている。このことは次のクルアーンの章句に明らかである。

إِنَّ الشَّيْطَانَ لِلْإِنْسَانِ عَدُوٌّ مُّبِينٌ. يوسف - 5 -

本当に、悪魔は人間にとって敵である [第12章：ユースフ章第5節 (Yusuf : 5)]⁴⁸⁾

قَالَ رَبِّ بِمَا أَغْوَيْتَنِي لَأُزَيِّنَنَّ لَهُمْ فِي الْأَرْضِ وَلَأُغْوِيَنَّهُمْ
أَجْمَعِينَ - الحجر - ٢٩ -

悪魔は言った「やあ、神よ！あなたは私の道を誤らせた。だから私はこの地球上の悪で人間を飾りたててやろう。そしてすべての人間の道を誤らせてやろう。[第15章：アル・ヒジュール章第39節 (Al Hijr : 39)]⁴⁹⁾

つまり、この儀礼では悪魔によって汚されないよう新生児の純粋なフィトラをまもり、新生児がイスラームを信仰するフィトラをまっすぐ成長させることができるよう、アッラーの教えに導くという意味をもっているといえる。

2) 口のなかになつめやしを入れる儀礼

新生児の誕生後、口のなかになつめやしを入れる儀礼がある。具体的にはなつめやしを指で潰し、なつめやしのついた指を新生児の口のなかに入れ、ゆっくりと右左に動かす。もしなつめやしが手に入らない場合は、他の甘いもので代用してもよいとされている。

これに関連したハディースはいくつかみられるが、そのなかの一つは以下のものである。

وَلَدَ لِيْ غُلَامٌ فَآتَيْتُ بِهِ النَّبِيَّ صَلَّى اللَّهُ عَلَيْهِ وَسَلَّمَ فَسَمَّاهُ
إِبْرَاهِيْمَ وَحَنَكُهُ بِتَمْرَةٍ، وَدَعَا لَهُ بِالْبِرْكَةِ، وَدَفَعَهُ إِلَيَّ.

私は、一人の子どもを授かった。そして私は預言者のところに自分の子どもを連れて行った。預言者はその子どもにイブラヒムという名前を与え、一粒のなつめやしを子どもの口のなかに入れ、神の恩恵に対して祈った。その後で、子どもを私に戻した。[ハディース：シャヒハイン (HR Shahihain)]⁵⁰⁾

この儀礼の効用は、神の恩恵に感謝すること、そして舌を動かすことによって新生児の口の周囲の神経や喉、下顎の力を強め、元気に乳を飲むことができるようにすることであるとされる。また新生児が敬虔なムスリムになるため、この儀礼は信仰の厚い人間によって行われるのが望ましいと考えられている。

3) 子どもの髪を剃る儀礼とアキカ ('aqiqah)

子どもの髪を剃る儀礼は、誕生から7日目に新生児の髪を剃り、貧しい人たちに髪の重さと同じだけの銀を寄付するというものである。この儀礼には2つの効用があると考えられている。第一に、髪を剃ることによって頭皮を強くし、視覚、嗅覚、聴覚を鋭敏にするという新生児の健康上の効用である。第二に、髪と同じ重さの銀を貧しい人に分け与えることによって、社会的結束を強化し、新生児を社会の新しい構成員として認知するという効用である。これに関連したハディースに、例えば次のものがある。

أَنَّ رَسُولَ اللَّهِ صَلَّى اللَّهُ عَلَيْهِ وَسَلَّمَ أَمَرَ بِحُلُقِ رَأْسِ الْحَسَنِ
وَالْحُسَيْنِ يَوْمَ سَابِعِهَا فَحُلِقَا، وَتَصَدَّقَ بِوِزْنِ نَهْ فَضَّةً.

預言者は、ハサンとフサインの誕生7日目に彼らの髪を剃るよう命じた。そして、彼らの髪を剃り、その髪の重さと同じだけの銀を寄付した⁵¹⁾。

またアキカは、誕生から7日目に新生児が男子ならやぎ2頭、女子なら1頭を捧げる儀式である。これに関連するハディースは非常に多く、強く奨励される行為である。これらのハディースに、例えば次のものがある。

قَالَ رَسُولُ اللَّهِ صَلَّى اللَّهُ عَلَيْهِ وَسَلَّمَ: كُلُّ غُلَامٍ رَهِيْنَةٌ
بِعَقِيْقَتِهِ، تُذْبَحُ عَنْهُ يَوْمَ سَابِعِهِ، وَيُسَى فِيهِ، وَيُحْلَقُ رَأْسُهُ.

預言者はおっしゃった。「すべての子どもはアキカを行なわれなければならない。誕生から7日目に動物を捧げられ、その日に名前を与えられ、髪を剃られなければならない。」

عَنِ الْغُلَامِ شَاتَانِ. وَعَنِ الْأُنْثَى وَاحِدَةٌ، وَلَا يَضُرُّكُمْ ذِكْرَانَا
كُنَّ أَوْ إِنَاثًا، أَيُّ الذَّبَائِحِ.

新生児が男子ならやぎ2頭、女子ならやぎ1頭を捧げなさい。そうすれば危険から逃れるだろう⁵²⁾。

イスラームにおける新生児観—フィットラ (*fitrah*) 概念を中心に—

アキカを実施する意味についてアブドゥラーは、現世に生まれ出でできる限り早い時期に子どもをアッラーに近づけ、さまざまな災難から子どもを遠ざけるための犠牲であると述べている⁵³⁾。

5. お わ り に

以上、イスラームにおける新生児観と、その新生児観に基づいて実施される儀礼の意味について、フィットラ (*fitrah*) という概念を中心に考察してきた。本稿で明らかになったことは以下の点である。

1. フィトラは、「生来もって生まれた潜在的可能性あるいは基本的能力」であり、人間が生来もって生まれる潜在的可能性や基本的能力にはさまざまな種類があると考えられている。しかし、信仰するフィットラと、人間のフィットラには神の性質が含まれているという2つの特徴は、特に新生児観を考察する上で重要である。

2. 本来的にすべての子どもは信仰するフィットラ、特にイスラームを信仰するフィットラをもって誕生してくる。すべての人間は誕生前にアッラーが神であることを証言しており、その証言が人間として誕生する際にもって生まれるフィットラとなる。

3. 人間の魂はアッラーの魂から生まれ、神の姿に似せて創られた浄い存在である。そのため、人間は罪を背負わない純粋な (*suci*) 状態のなかで誕生し、新生児からバリフに至るまで子どもは純粋である。

4. 新生児がフィットラを発展させ、敬虔なムスリムとなるための教育は、誕生した時から実施されなければならない。そのため、1) 新生児に対するアザーンとカマツト、2) 口のなかになつめやしを入れる儀礼、3) 子どもの髪を剃る儀礼とアキカ、などの儀礼が定められている。これらの儀礼によって新生児を悪魔から守り、アッラーの教えに導くことが保護者をはじめとするムスリムの責任である。

本稿では、イスラーム教育思想のなかの子ども観を明らかにしていく一環として、新生児とフィットラの関係に限定して考察してきた。そのため、精通・初潮を通過してバリフに至るまでの子ども観や教育観、割礼など新生児以後に行われる儀礼については触れることができなかった。今後は新生児以後の子どもの発達と教育・儀礼についての思想的側面を総合的に検討する必要があると考えている。これらについては今後の課題としたい。

《注》

1) たとえば最も有名なものとして、「もし子どもが7歳になったら礼拝を行うよう命じなさい。そしてもし子どもが10歳になっても礼拝しようとしなければ叩きなさい」[ハディース：アブ・ダウド&アル・ハキム (HR Abu Daud & Al-Hakim)]というハディースを挙げることができる。

2) 「コーラン」と表記されることもあるが、本稿では原語により忠実に「クルアーン」と表記する。クルアーン

- ンはイスラームの基本的な聖典で、預言者ムハンマドを通して神がアラビア語で語った啓示、ハディースは預言者ムハンマドの言行に関する伝承を意味する。この2つ、つまり「啓示としてのクルアーン」と「預言者の伝承の集大成としてのハディース」が「イスラームの原点」をなしている。より詳しくは、井筒俊彦「言語現象としての「啓示」」『イスラーム思想2』（岩波講座・東洋思想第四巻）岩波書店、1988、pp. 4-47、牧野信也『コーランの世界観-イスラーム研究序説-』講談社、1991.などを参照のこと。
- 3) Nurcholish Madjid, *Islam Agama Kemanusiaan-Membangun Tradisi dan Visi Baru Islam Indonesia*, Yayasan Wakaf PARAMADINA, 1995, p. 179.
 - 4) 調査は、1995年5月9日-6月24日にかけてインドネシア・西スマトラ州P村で実施した。詳しくは拙稿「イスラームにおける通過儀礼と宗教教育に関する序論—インドネシア・西スマトラ州パリアガン村における事例研究—」日本比較教育学会編『比較教育学研究』第22号、1996、pp.139-151.を参照のこと。
 - 5) たとえば原忠彦「イスラーム教徒社会の子ども」原ひろ子・宮澤康人編『新しい子ども学 第3巻子どもとは』海鳴社、1986や、箕浦康子「子どもの生活世界と学校」(箕浦康子研究代表者『タイ・バングラデシュ・日本における保健・衛生知識の普及と学校教育-心理・教育人類学的アプローチ』平成9-10年度科学研究費補助金(国際学術研究)研究成果報告書),1999、pp.91-105など。
 - 6) 本稿で参照する文献は主として、インドネシアで出版されたイスラーム教育思想に関する文献、およびエジプトで出版されたイスラーム教育思想関連文献のインドネシア語翻訳版であることをあらかじめ断っておきたい。そのため、クルアーンおよびハディース解釈に偏りがある可能性が考えられるが、地域による解釈の相違については今後の比較研究の課題としたい。
 - 7) Ahmad Tafsir, *Ilmu Pendidikan Dalam Perspektif Islam*, Remaja Rosdakarya, 1992, p. 47.
なお、日本ムスリム協会編『聖クルアーン-日亜対訳注解-』1982、p.653.および藤本勝次編『コーラン』1979、pp.474-475は、共に「عَبْدًا」を「仕えさせる」と注釈し、井筒俊彦『コーラン(下)』岩波書店、1958、p.149では「かしずかせる」と注釈している。また、インドネシア宗教省発行のクルアーンにおいては「menyembah」、アフマド・タフシールは「beribadah」と注釈している。詳しくは、Departemen Agama, *Al-Quran dan Terjemahnya*, Departmen Agama, 1993, p. 862. および Ahmad Tafsir, *op-cit.*, 1992, p. 47. 参照のこと。
 - 8) 牧野信也『イスラームの原点-コーランとハディース-』中央公論社、1996、pp.126-127.
 - 9) Nurcholish Madjid, *op-cit.*, 1995, p. 179.
 - 10) この章句の他に、人間の存在とアッラーとの関係を示すものとして、例えば「第2章：雌牛の章 (al-Baqarah)」第21節、「第21章：預言者章 (al-Anbiya')」第25節、「第16章：蜜蜂章 (al-Nahl)」第36節がある。なお便宜上、各章の日本語訳は日本ムスリム協会『聖クルアーン-日亜対訳注解-』1982のものに統一した。
 - 11) Nurcholish Madjid, *op-cit.*, 1995, p. 179.
 - 12) 牧野信也、前掲書、1996、p.179.
 - 13) Endang Saifuddin Anshari, *Wawasan Islam-Pokok-Pokok Fikiran Tentang Islam dan Ummatnya*, Raja Grafindo Persada Jakarta, 1986, p. 19.
 - 14) Endang Saifuddin Anshari, *ibid*, 1986, p. 20.
 - 15) M. Natsir, *Islam dan Secularisme* (Pidato dalam sidang pleno Konstituante 12 November 1957), Endang Saifuddin Anshari, *ibid*, 1986, p. 23.
 - 16) 井筒俊彦「言語現象としての「啓示」」『イスラーム思想2』（岩波講座・東洋思想第四巻）岩波書店、1988、

イスラームにおける新生児観—フィトラ (*fitrah*) 概念を中心に—

pp. 8-9.

- 17) Endang Saifuddin Anshari, *op-cit.*, 1986, p. 25. サイフディンの分類の他にも、イスラームを説明するさまざまな見取り図があるが、ここではサイフディンの分類を用いた。
- 18) 一般的に五行は、1) 信仰告白, 2) 礼拝, 3) 喜捨, 4) 断食, 5) 巡礼とされるが、サイフディンは、1) 清め (*thaharah*), 2) 礼拝, 3) 喜捨, 4) 断食, 5) 巡礼としている。
- 19) Endang Saifuddin Anshari, *op-cit.*, 1986, pp. 25-29.
- 20) Nurcholish Madjid, *op-cit.*, 1995, p. 179.
- 21) Syahminan Zaini, *Arti Anak Bagi Seorang Muslim*, al-ikhlas-surabaya, 1982, p. 24. および Syahminan Zaini, *Prinsip-prinsip Dasar Konsepsi Pendidikan Islam*, Kalam Mulia 1986, pp. 5-6.
- 22) M.Arifin, *Ilmu Pendidikan Islam-Suatu Tinjauan Teoritis dan Praktis Berdasarkan Pendekatan Interdisipliner*, Bumi Aksara, 1991, pp. 88-89.
- 23) M. Arifin, *ibid.*, 1991, pp. 97-103.
- 24) Ahmad Tafsir, *op-cit.*, 1992, pp. 34-35.
- 25) 藤本勝次『コーラン』中央公論社, 1979, p. 378. および Zakiah Daradjat (eds.), *Ilmu Pendidikan Islam*, Bumi Aksara (bekerjasama dengan Direktorat Jenderal Pembinaan Kelembagaan Agama Islam Departmen Agama), 1992, p. 57.
- 26) M.Arifin, *op-cit.*, 1991, pp. 88-89.
- 27) Syahminah Zaini, *op-cit.*, 1982, p. 16.
- 28) Azharuddin Sahil, *Indeks Al-Quran-Panduan mencari Ayat Al-Quran Berdasarkan Kata Dasarnya*, Mizan, 1994, p. 188.
- 29) Zakiah Daradjat, *op-cit.*, 1992, p. 62, Ahmad Tafsir, *op-cit.*, 1992, pp. 34-35, M.Arifin, *op-cit.*, 1991, pp. 88-91, Syahminan Zaini, *op-cit.*, 1986, p. 1.
- 30) Syahminan Zaini, *op-cit.*, 1982, pp. 24-25, Ahmad Tafsir, *ibid.*, 1992, p. 37. また、これらと同じ内容は、クルアーン「第39章：集団章 (*al-Zumar*)」第8節, 「第30章：ビザンチン章 (*al-Rum*)」第33節, 「第31章：ルクマーン章 (*Luqman*)」第32節にもみられる。
- 31) Nurcholish Madjid, *op-cit.*, 1995, p. 179.
- 32) M.Arifin, *op-cit.*, 1991, p. 89.
- 33) Muhammad Abduh, *Tafsir Al-Manar, Juz IV*, p. 119, M.Arifin, *op-cit.*, 1991, pp. 88-91.
- 34) Ahmad Tafsir, *op-cit.*, 1992, p. 37. イスラームは自らをユダヤ教, キリスト教の姉妹宗教としており, 3つの宗教の聖典は同じ一つの神アッラーの, 時代と場所を異にする同じ一つの啓示と考えている。つまり, イスラームに先行する一神教としてのユダヤ教やキリスト教およびその他のすべての一神教の根底に「永遠の宗教」というものを考えている。そのため, ここでいう「アッラーの宗教」とは, 本質的にはユダヤ教やキリスト教やその他の一神教の宗教を含んでいる。しかし, イスラームでは, ユダヤ教とキリスト教は「永遠の宗教」の本筋から少し脇にそれたと考えられている。詳しくは井筒俊彦訳『コーラン (上)』岩波文庫, 1957, p. 297, 牧野信也, 前掲書, 1996, pp. 129-130. を参照のこと。
- 35) Nurcholish Madjid, *op-cit.*, 1995, p. 179.
- 36) Syahminah Zaini, *op-cit.*, 1982, p. 17, pp. 24-25.
- 37) Syahminah Zaini, *ibid.*, 1982, p. 17. また, これと同じ内容は, 「第57章：鉄章 (*Hadid*)」第8節, 「第5章：食卓章 (*Ma'idah*)」第7節にもみられる。
- 38) Syahminah Zaini, *ibid.*, 1982, pp. 24-25, 1986, p. 21.

- 39) M.Arifin, *op-cit.*, 1991, p. 91, Syahminah Zaini, *ibid.*, 1982, pp. 44-45.
- 40) Syahminah Zaini, *ibid.*, 1982, p. 27-28.
- 41) *Ibid.*, p. 29.
- 42) 牧野信也『コーランの世界観－イスラーム研究序説－』講談社, 1991, p.178.
- 43) Ahmad 'isa 'Asyur, *Kewajiban dan Hak Ibu, Ayah dan Anak-menggugah setiap insan selaku anak*, Diponegoro, 1987, pp. 106-107.
- 44) Syahminan Zaini, *op-cit.*, 1986, p. 9.
- 45) Abdullah Nashih Ulwan, *Pedoman Pendidikan Anak dalam Islam I*, CV ASY'SYIFA' Semarang, 1993, p. 57(原著: Adbullah Nashih Ulwan, *Tarbiyatu'l-Aulad fi'l-Islam*, Daru's-Salam Li'th-Thiba'ah wa'n-Nasyrwa't-Tauzi', Kairo, Cet III, 1981)
- 46) Moh Rifa'i, *Risalah Tuntunan Shalat Lengkap*, C.V.Toha Putra Semarang, 1976, pp. 28-29.
- 47) Abdullah Nashih Ulwan, *op-cit.*, 1993, pp. 57-58.
- 48) Syahminah Zaini, *op-cit.*, 1982, p. 45.
- 49) *Ibid.*, pp. 45-46.
- 50) Abdullah Nashih Ulwan, *op-cit.*, 1993, p. 59.
- 51) *Ibid.*, p. 61.
- 52) *Ibid.*, pp. 76-77.
- 53) *Ibid.*, p. 90.

《付記》

本稿は、平成9年度聖徳学園岐阜教育大学研究助成金による研究成果の一部である。ここに厚く感謝の意を表します。